

「広域連携SDGsモデル事業」の選定について

「広域連携SDGsモデル事業（3次募集）」について、下記のとおり選定いたしましたのでお知らせします。なお、2次募集につきましては、選定事業はございませんでした。

記

広域連携SDGsモデル事業：2事業

1. 提案代表都市 北海道北見市
連携する自治体名 北海道美幌町、北海道津別町、北海道訓子府町、北海道置戸町
モデル事業のタイトル 地方圏において誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりプロジェクト
2. 提案代表都市 鳥取県智頭町
連携する自治体名 静岡県松崎町
モデル事業のタイトル 日本で最も美しい村デジタル村民の夜明け事業

(公表資料)

- 別紙1 広域連携SDGsモデル事業提案概要
- 別紙2 広域連携SDGsモデル事業について

※以下のURLより公表資料をダウンロードしてください。

【ダウンロードURL】

https://sharedstorage.cao.go.jp/mb/cgi-bin/index.cgi/download/cr75re110NCQ4n5jzW80Pw/8cb5sC_uRLOv_MVt21ID6Q/

【ダウンロードパスワード】

je, agh7N

【ダウンロード期間】

9月2日（金）から6日（火）まで

以上

本件問合せ先：内閣府地方創生推進室
参事官 谷 浩
参事官補佐 宮里 潤、田中 一成
電 話：03-5510-2199
FAX：03-3591-8801

【事業名】地方圏において誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりプロジェクト

【提案者】
 北海道北見市（代表）
 北海道美幌町
 北海道津別町
 北海道訓子府町
 北海道置戸町

【事業概要】地方圏にあっても広域連携によるスケールメリットを活かした住民への福祉サービス提供体制を構築するとともに、農福連携などを柱とした障がい者就労支援を加速する生産年齢人口減少への対応につなげ、高齢者や障がい者など誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みをつくり、ローカルSDGsの取組促進を図る。

地域概要

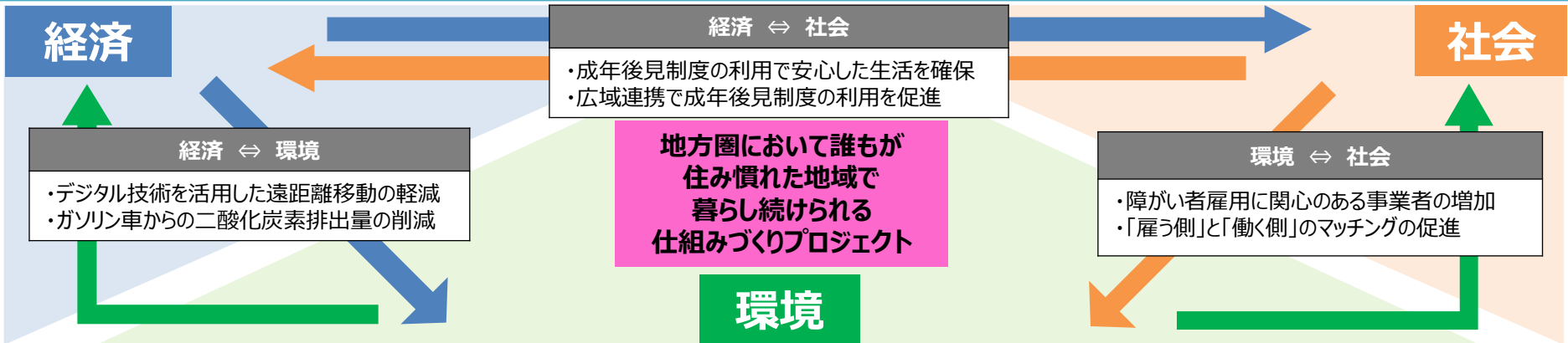
定住自立圏構想推進要綱に基づき、北海道東部に位置する中心市である北見市と経済圏や生活圏を共有する近隣4町（美幌町、津別町、訓子府町、置戸町）がネットワークと連携をさらに強化するため、令和元年10月18日にそれぞれ協定を締結し、1市4町による北見地域定住自立圏を形成している。
 圏域の人口は約14.5万人、面積は東京23区の約5倍にも及ぶ広域であるが、公共交通網は脆弱で、住民の主な移動手段は自動車である。

課題・目標設定

【課題】地域福祉を担う人材不足への対応、物理的な距離がもたらす支障への対応、障がい者の就労支援（生産年齢人口減少への対応）
【目標設定】人口減少が進む地方圏に住んでいても、重度な障がいがあっても、成年後見制度を利用しなければならない状況になっても、SDGsの理念に沿って、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりを目指す。



事業による相乗効果等



執行体制

1市4町が役割分担し、社会福祉協議会等の民間団体とも連携し事業を推進する。総合調整と進行管理は北見市が行い、首長会議で意思確認するとともに、北見地域定住自立圏共生ビジョン懇談会から幅広い意見を聴取する。

多様なステークホルダーとの連携

学識経験者、医療、福祉、教育、産業、防災、交通、公募住民を構成員とする北見地域定住自立圏共生ビジョン懇談会のほか、多様なステークホルダーから事業への幅広い意見を聴取するなど、事業の実現性を高める。

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税制度）を活用した民間企業からの寄附を広く獲得するなど財源確保に努め、事業の継続性を担保するほか、地域に根ざした助け合いを推進し、公助のほか、自助・互助・共助が行われるような、子どもから高齢者まで、年齢、性別や障がいの有無にかかわらず、誰もがいきいきと自分らしく暮らし続けることができるやさしい共生社会の実現を目指す。

広域連携SDGsモデル事業提案概要（提案様式2）

【事業名】 日本で最も美しい村デジタル村民の夜明け事業

【提案者】
鳥取県智頭町（代表）
静岡県松崎町

【事業概要】

ブロックチェーン技術に裏付けられたスマートコントラクトを構築し、DAO方式で管理する「デジタル村民コミュニティ」を創設する。各町村が持つ様々なコンテンツをNFTとして発行、村民のインセンティブを提供することで、関係人口の増加と地域課題解決・経済循環の基盤とし、過疎地における新たな社会構造を形成する。

地域概要

各地域は人口約6,600人～6,800人、高齢化率40%を超える典型的な中山間地域であるが、都市部では決して再現することのできない豊かな自然環境を有し、様々な方策により独自のまちづくりを展開している、「賑やかな過疎地」である。いずれの町村も「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、うち智頭町はSDGs未来都市に選定されている。

課題・目標設定

地域活性化、移住定住促進、都市部への魅力発信は各町村共通の課題であるが、「日本で最も美しい村」というブランドを共有しており、それぞれの地域の環境を保全すること、先進的なDX技術を融合することで、過疎地域における新しい社会システム展開を目指す。



事業による相乗効果等

経済

経済 ⇄ 社会

社会

経済 ⇄ 環境

日本で最も美しい村
デジタル村民の
夜明け事業

環境 ⇄ 社会

環境

- ・デジタル村民登録による関係人口の増加
- ・NFTインセンティブによる購買意欲の促進
- ・新たなビジネスチャンスの創出

- ・環境系NFT発行による保全活動の推進
- ・NFT購入に伴う経済活動の増加
- ・脱炭素系の取組への繋がり

- ・新たなデジタル社会への加盟村の増加
- ・美しい村の環境系NFTの増加
- ・地域課題解決のプラットフォーム形成

執行体制

「日本で最も美しい村」連合サポーター有志で構成されるコンソーシアムの協力により、ブロックチェーン型スマートコントラクトプログラムをDAO方式で管理し、加盟町村のNFT発行とデジタル村民のインセンティブをマネジメントする。

多様なステークホルダーとの連携

NPO法人「日本で最も美しい村」連合と合同会社美しい村プロジェクトの協力により、既加盟町村へのPRやデジタル村民獲得のためのインセンティブ確保、DX技術によるリソース削減など、連合加盟促進への波及効果も見込むことが可能。

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

デジタル村民（＝ファン）が購入する美しい村発行のNFT収入による事業の自走を見込む。また、ブロックチェーン技術を使ったDAO方式での相互互惠関係は、参画組織、団体における人的リソースの軽減と、様々な立場からの知見の吸収、発展、深化を可能とし、「日本で最も美しい村」連合加盟町村のブランド力につながることも、この取り組みをとおした新しい社会フレームが、日本の農山漁村における自律的好循環形成の最適なモデルとなる。

概要

- 中長期を見通した**持続可能なまちづくり**に向けて、
 - ①複数の小規模な地方公共団体等が**広域で連携**し、②**スケールメリットや相互補完により実行可能性を高め**つつ、
 - ③**SDGsの理念に沿って**、地域活性化を目指す好事例を「**広域連携SDGsモデル事業**」として選定し、支援を行う。
- 地方公共団体の広域連携の取組を支援するとともに、成功事例の普及展開を行い、全国の地方創生の深化につなげる。

広域連携SDGsモデル事業

複数の地方公共団体
による広域連携

スケールメリットや
相互補完による
実行可能性の向上

【SDGsの理念】
経済・社会・環境の三側面の統合的取組

地域の
デジタル化、脱炭素化等に取組み、
地域活性化を目指す

(備考)

- ・連携には、**人口5万人未満の地方公共団体を1団体以上含むこと。**
- ・遠隔の地方公共団体との連携も可能。
- ・3団体以上の連携が望ましい。

補助

補助金 総額 1億円

提案者の種別	対象経費	選定数	補助金額・補助率
A 複数の市区町村による連携事業	計画策定、事業実施体制の構築、普及啓発活動、外注費（工事請負、システム開発等）、委託料 など	若干数	2,000万円 【補助率2/3】
B 都道府県及び複数の市区町村による連携事業		若干数	3,000万円 【補助率1/2】

自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援（計画策定等）

自治体SDGs推進評価・調査検討会による継続的な助言、支援

持続可能なまちづくり

成功事例の普及展開